

東大和市子ども・子育て支援会議 第3回議事録

会 議 名	平成28年度 第3回 東大和市子ども・子育て支援会議
開 催 日 時	平成28年10月21日(金) 14:00～
開 催 場 所	東大和市立中央公民館 301学習室
委 員	(出席者)佐々木委員、水上委員、上田委員、仲里委員、黒岩委員、黒田委員、續谷委員、 神原委員、小林委員、三坂委員、網干委員
事 務 局	榎本(子ども生活部長)、新海(子ども生活部副参事)、鈴木(子育て支援課長)宮鍋(保育課長)、 梶川(狭山保育園長)、中村(青少年課長)、志村(健康課長)、渡邊(保育・幼稚園係長)、 小川(子ども・子育て支援施策推進担当)
傍 聴 者	0名
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 委員自己紹介 4. 会長挨拶 5. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1)小学生の放課後の過ごし方について (2)ママサロンについて (3)報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・10月1日現在の学童における待機児童数について (4)その他 <ul style="list-style-type: none"> ・次回会議日程について 6. 閉会
配 付 資 料	[事前配付] 会議次第 子育て支援事業の利用状況 小学生就学後の放課後の過ごし方 学童クラブとランドセル来館(児童館)との内容の比較 平成28年度活動日及び場所・対象学年 平成28年度学童保育所の申請・入所状況 年齢別町丁別人口統計推移表 小学校の放課後対策について(黒田案)
会議の結果及び主要な発言	
事務局	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委嘱状交付 (子ども生活部長より新任委員への委嘱状交付) 3. 委員自己紹介 4. 会長挨拶 5. 小学生の放課後の過ごし方について 前回、委員の改選があった。前期から継続されている委員、新たになった委員がいるので、議題について自由にご議論いただき、当市の子育て対策の現状、当市に課されている課題や解決施策をご提言いただきたい。現在、東大和市では保育所等の待機児童数は昨年が4人、今年7人で推移しており、来年度はゼロを目指して手を打っている。一方、学童保

育所の待機児童が非常に多く、この4月に八王子に次いで2番目に多いと新聞報道がされた。当市では、学童保育所に入れなかった場合、児童館によるランドセル来館事業、さらには小学校の余裕教室として今年は二小と四小を使わせていただいて、必ずどこかの施設では預かる施策を進めている。国はそのようなところで預かっても、待機児童には変わらないということで、カウントから外されており、本来はゼロだが、二百数名ということで、夏に新聞報道された。小学生の放課後の過ごし方について、国も色々、特にひとり親家庭、貧困家庭において、居場所と学習支援、夕食の提供、それから保護者の相談機能、この4事業をセットでやると補助対象になる制度が始まったが、その4つを一遍にやるのは難しく、制度にたどり着けない。本日は、小学生の放課後の過ごし方について議題に供させていただいた。資料も事前配付等でお送りしているが、質問を含めご意見等いただければ幸いである。

会長

ありがとう。子育て支援事業の利用状況と、小学生就学後の放課後の過ごし方、まずこの2つの資料をもとに、協議していくという理解でよろしいか。

事務局

そうだ。よろしく願いたい。

会長

我々も2期目に入った。今日の協議内容は、はっきりとした結論を求めるということでもない。新しい委員もいるので、お互いのバックグラウンド等々わかるような、自己紹介も含めた形でご意見等々頂戴できれば、よりお互いにいい形での協議ができるのではないかと思う。

それでは、小学生の放課後の過ごし方について資料説明とかあるか。

事務局

以前、子ども・子育て支援事業計画を作成する前の段階で、市民の方々にお願いしたニーズ調査を集計したもの、学童クラブとランドセル来館の比較したもの、それと、今日、委員の案という形でお持ちいただいたものの3種類になる。

会長

では、せっかく委員から案をお持ちいただいたので、まずご自身のバックグラウンドとか信条とかを話していただいた上で、この私案の説明をお願いします。

委員

私は、一年半前に武蔵小杉から桜が丘に引越してきた。1歳と3歳の息子2人がいるが、引越しと同時に妊娠がわかり、出産と同時に産後鬱を患った。産後苦しんだ経験を生かして、色々疑問に思うことを周りのお母さん方と一緒に考えてきた。今、子育て支援団体というか、子育てサークルみたいなものを立ち上げて、まちおこしを考えて、真剣に東大和市をよくしようとしているお母さんが20人ぐらい周りにいる。そういう方々と一緒にこうしたらいいのではないかと考えたものをご紹介させていただく。

あとは、放課後NPOアフタースクールと明光キッズも取り上げたが、こちらは企業で色々放課後の学童に積極的に取り組んでいる。行政と企業と地域が一体となって、子どもたちの環境を整えていきたいというのが私の案である。この放課後NPOアフタースクールは、地域の皆様が市民の先生となって小学校に来るという案である。地域には色々な特技を持っている方、また定年退職後に何かやりたい、地域のために活躍したい方が結構いる。そういう方が学校に来て、自分たちの特技や経験等を生かして先生となって、やっていただくというものである。中学校や高校や大学生、全て地域を巻き込んで、小学校とかで、ボランティアとして、子どもを地域一体となって支えて、育てていくという環境ができればいいなと思った。

あと AsMama という取り組みがあり、1時間500円で子育てをシェアする取り組みを企業でやっている。横浜の一お母さんが立ち上げた会社なのだが、今、全国展開しており、自治体では秋田県と奈良県がもう既に、市と企業で協働して市全体を盛り上げていく取り組みをスタートしている。こちらを市全体で導入し、AsMama さんが地域の人材を発掘し、地域の中心者となって、子どもを守り育ていける、そういうリーダーを育成し、そういう方に集まりやコミュニ

ティをつくっていただき、そこに地域の方を呼び込んで、乳幼児から小学生まで、子どもたちを地域一体で育んでいこうという取り組みをしている。

こちらは、乳幼児を抱える私としても、ありがたい政策だが、同じく乳幼児を抱えているお母さん方で、実際疲れている方、孤独にさいなまれている方が多く、鬱を患っている方もすごく多い。虐待なんか氷山の一角だと感じることもあり、地域で例えば顔見知りの方とか、ご近所のおじいちゃん、おばあちゃんに1時間預けることによって、お母さんもリフレッシュでき、子育てがより楽しめるのではないかと思う。それを展開しているのがこの AsMama さんになる。これをぜひ、市と企業と地域一体で導入していただけたらと思い提案させていただいた。

会長

ありがとう。今、提案について説明いただいたが、幾つか画期的なこともあった。

私は市内で4つの保育所と玉川上水で小規模保育園を運営している蓮花苑という社会福祉法人の理事長をしている。蓮花苑の仕事としては、保育所だけではなくて児童養護施設を市内で運営しているので、社会的養護の一端を担っている立場である。保育園では、民間保育園の園長会の会長をやらせていただいている。

大事なのはそれぞれのお母さんや、お父さんも含めてだが、子育てを地域で孤立させないことが一番大きいポイントではないか。それをどういう形で方策を探るかに尽きるのではないか。それが上手いかないと、子育てママを中心にして、精神的に疲弊してしまう。

それから、虐待の年間増加件数だが、速報で27年度は10万件を超えた。これでも多いと思うが、でもそれはまだまだ氷山の一角で、それに至る前で何とかこらえている親御さんとか、かろうじて踏みとどまっているお母様とかたくさんいる。その原因の一つが、子育てで孤立化してしまって、地域や同じ家の中の世代間で、いわゆる子育てのノウハウといったものを継承できていたのが、最近はなかなかそうもいなくなってきた。ならば、必ずしも縦の関係ではなくて横の関係でもって、同じ子育ての悩みとか、そういうのを共有することで、多少なりとも解決していけたらと。

もう一つ重要なのは、悩みを聞いてくれる存在がいて、その相手が完璧な答えを返してくれなくても、話して出すことによって、話しているうちに自分の頭の中で、心の中で整理ができて、自ら解決の糸口を見つけていくのもあるので、そういう関係を持てるのが大きいと思った。大変いいポイントがあったので、そこを膨らませて、私なりの意見はさせていただいた。

ほかの皆さんいかがか。

委員

委員の説明を受けて、そうだなと思うところが多々ある。私自身も、公民館の保育室を利用して、子育てのことを考えるグループを立ち上げて、十二、三年。卒業してからも保育室を利用されているお母さんたちに声をかけて、講座を開いて講師を呼んだり、自分たちが子育てはつらくないテーマで、母親も父親も、ともに子育てをしていく上での講座をやっていたので、とてもこれは共感できるところだ。でも、日本の生活文化というか風習というか、男尊女卑的などがまだ蔓延しているところも現実ではないかと。理解して子育てに協力してくれる父親は、だんだん多くなってきている時代だが、まだまだ夫は社会に仕事に出て、女性は家事、子育てという生活に追われているのが現実ではないかと思う。そういった中で、子育てが本当につらくない人なんていないと思う。地域がどうやって手助けをしていくかは、個人では難しいなというのはつくづく感じている。だから、地域だけではなくて、ある程度行政にも関わっていただき、共に手をとり合って、行政は行政ができる範囲で、我々は我々でできることで、何かができればいいなと思っていたところにこれがぽんと来たのでいいなと思った。

でも、少なくとも東大和市に何もなければいけないわけではないと思う。色々なものが徐々にできてい

て、それを利用しながら、他市の取り組みも学びながら、どう子育てが、地域でできるのかを一緒に考えていけたらと思う。その中で、知らぬ存ぜぬではいけないところを、我々がもっと、話し合いを密にしておくべきなのかなと思う。小平市で第六小学校を見学したが、地域の方が学校に入って、地域のおじいちゃん、おばあちゃん方が子どもたちと囲碁、将棋をしたり、色々なものをつくってみたり、子どもたちと交流を持っている。おじいちゃんやおばあちゃんたちは若返り、子どもたちは昔ながらの遊びや、知恵をいただきながら、楽しく社会的な教育活動をしている学校もある。東大和では、こういう風な新たな展開になっていくのかというのを聞いてみたいと思っている。

会長
委員

ありがとう。ほかにはいかがか。

東大和には文庫があり、もう40年以上活動している。私もその文庫連絡会の代表をしているが、市内には幾つもの文庫がある。それは地域の文庫であったり、家庭の文庫であったりと、その文庫に子どもたちが来ていた。40年ぐらい前というのは、文庫ブームというぐらいで、地域の方たち、子どもと本が好きな人たちが子どもたちを集めて、一緒に本を楽しむということでやっていた。私がやっているのは「ぼけっと文庫」といって、清原に図書館ができるまでは、放課後の普通の文庫をやっていた。清原図書館ができた子どもたちが来なくなったので、午前中に子育て支援の文庫をやっている。そうすると、1時間ぐらいだが、お母さんと赤ちゃんが来て、自分の赤ちゃんから解放されて、私たちみたいなおばあちゃんがちょっと預かって遊んであげることで情報交換ができたりする。お母さんと色々な話ができて、夕飯こういう風にやると手抜きができるなんていう話もできるようになっている。毎年大体10組前後だが、文庫を卒業して幼稚園、保育園に行くお母さんたちもいる。他の文庫は午後やっているが、小さな赤ちゃんから小学生まで、色々な形で毎週とか、うちは月に2回だが、子どもたちのいる場所というものを確保しているというのが、40年以上続いている。これはなくてはならないものなのだと思う。ただ、正直言って子どもが余り来なくなった。というのは、ゲームのほうが読み聞かせやお話し聞くより楽しいから。ちょっと残念だなと思う。

あとは、公共図書館、東大和では中央図書館と桜が丘、清原があるが、それぞれの館の取り組みで、子どもたちに読み聞かせや、赤ちゃんやお母さんにはわらべうたを教えたりと、お母さんたちのいる場所、それから放課後の子どもの居場所づくりというのは、少しずつだが毎年ずっと続いているということを知っていただけたらと思う。

それから、学校での放課後子ども教室、青少対等も学校区ごとにある。その中でも色々な行事を企画して、子どもたちの居場所、活動場所もやっているが、色々な団体がばらばらでやっているの、何かそれがつながるといいなと思っている。というのは、実は文庫連絡会40年以上という話をしたが、この中でたんぼぼという文集を毎年発行している。文庫連に加入していなくても情報をくださいということで毎年一覧をつくっている。地域で子どもと子どもの本、それから勉強会にかかわっているグループがわかるようになっているので、一覧にすることの大事さをたんぼぼをつくる中で感じていたので、もし子育て支援、それから子どもたちの放課後の過ごし方という中で、同じように、全てのものがわかるということは大事なかなと。

去年もお話しさせてもらったが、ホームページを見ても何しても、どんどんクリックして探していかなければならないのではなくて、もうちょっと便利でわかりやすいものが欲しい。それとパソコン操作できない方たちにもわかるようなものが考えられるといいなと思う。

会長

確かに、一つ一ついいことをやっても、それぞれであるというか、独立、分離していて、横のつながりとか双方の有機的、相関的な関係が築けていないから、東大和市内での子育ての

施策があつて、例えば市が始めた保育コンシェルジュ制度は、ある程度統一的にまとめてわかるようにしようというのを、これをもっと広げて学童になつても、例えばこの地域にはこういう資源や組織があることがわかるようなことが、うまくPRできる点ではないかなと思う。

あと2点あるが一つはちょっとした休み、レスパイト。1時間でも子育てから離れていられると、少し気持ちが楽になったりするから、レスパイトの時間をできるだけ求めやすいような環境をつくってあげるといふことも大事ではないか。もう一つは世代間の継承。今は一つの家の中でできないのだったら、地域とか、そういう中で一小学校区とかそういう中で、世代間の継承ができれば、素晴らしいので、ぜひその辺の観点で。そもそもの話で伺いたい、学校を利用してやられている、放課後子ども教室の管理ってどなたが行っているのか。

青少年課長

放課後子ども教室は、地域のボランティアの方が主になり、コーディネーターを中心にやっている。地域の方たちが集まって、子どもの見守りを学校に場所を提供していただき、そこでお子さんたちを時間的に、放課後から帰るまでの間、夏時間、冬時間とあるが、それまでお預かりしている。行政は、青少年課の職員と現場の職員になるが、その方が各校10校あるが、毎回は行けないが、一緒に見守りをしているのが現状だ。

委員

私は今の職をやる前に、教育委員会の事務局だとか保育園の事務担当者を行政でやっており、東京都の島嶼地区で働いていたが、とにかく東京都から似たような調査がばんばん来る。縦割り行政の弊害で、学校の教育委員会、学校運営協議会、要するに地域の方々を巻き込んでいこうという動き自体はある。ただ、それが色々なところで声を上げてしまっているので、正直何が何だかよくわからないのが印象だが、やるかやらないかという話になると、やったほうがよいとなる。ただし、物事には優先順位があるし、当然できない、もしくは救ってあげなくてはいけない、そこら辺を順序立ててやっていくのがいい。

会長

重要なポイント。ありがとう。ほかにいかがか。

副会長

私は幼稚園の園長をしており、今、東京都の私立幼稚園連合会の教育研究員もやっているが、2～3年前から7時半から6時半の預かり保育をうちの幼稚園でもやっている。今一番困っているのは、預かり保育に入れるのは、子育て中の不安や自分が病気を抱えている、親の介護、パートのお母さんたちが多い。保育園に入れたい、保育園に行かせたくないという状況であり、後は子育てと働くのを両立したいお母さんが増えてきているのが大きなポイントで、うちの幼稚園で初めて、今年から料金設定もかなり変えて、3時半まで預かると料金が安くやれるというのを始めた。その狙いは、お母さんの手元で育てられる時間は育ててほしい。お母さんにそういう気持ちを持ってほしいと始めたら、大体半分以上が3時半ぐらいで帰る。

あと、未就園児教室を始めた。毎日ではなく、月に5回、親子体操であったり、幼稚園の保育の前の段階で、遊びを中心にやるのが増えて、そこが大きな役割になっている。何がいいかという、全員で一緒のことをやらせましょうというのを2歳の段階ではしていない。自分の興味があるものに入ってくるのが、すごく大切だと思っていてお母さんの共感を得ている。今のお母さんたちは、みんなと一緒にできなかつたり、同じではなかつたら不安になるところが大きい。3歳児や1歳半健診の時に、そこで傷つくお母さんたちが増えている。言葉が遅れている、こういうことができていない、では支援を受けてくださいと言われて傷ついているが、毎週のように関わっていると、そうではないお子さんも結構いる。そういうところでお母さんたちが子育ての多様性を認めていけるようになる。これは小学校でも同じだと思う。放課後児童クラブや児童館でも、それぞれの発育があり、自分の興味のないものには加われない、そういうところを親に理解してもらふことが重要になっている。

<p>会長 委員</p>	<p>ほかに。</p> <p>れんげ保育園の園長をしている。お母さんたちは相談には来てくださるが、中には相談にも行きにくいという方もいる。そういう方は、逆に自分の子が気になる行動をする、相談に行くとか何か言われるのではないかと、なかなかこない。この間、電子レンジという言葉を知らなかった5歳のお子さんいて、何で言えなかったかというと、お母さんが電子レンジのことをチンとしか教えていなかった。今の時代、お母さん自身が言葉を知らなくて、チンしてきてと言ったので、ずっと5歳まで電子レンジという言葉を知らなかった。冷蔵庫も、そこからとってきてというので、そこというと冷蔵庫になっていて、全く言葉を知らなかった。単純なことなのだが、そういうことがやっと私に言えたという方がいて、そういう方の支援もとても大切だと思った。地域に出ていける方はいいと思うが、鬱になったらなかなか相談に行けないとか、家の中で引きこもっている方に対する支援を、考えていかなければいけないのかなと思った。</p> <p>もう一件あるが、子どもが親が立っていないと寝ないという相談に来られたが、それも誰にも言えなかった、保育園でも何分か聞いてもらえれば、安心してまた来ると帰った方もいるが、そういうひきこもりではないが、お家の中にいる方をどういう風に地域に引き出してくるのが大事かと思った。</p>
<p>副会長</p>	<p>特別支援の問題はそこである。今、育て方、環境の影響があるが、それはお母さんが悪いのではなくて、そういう環境を地域や国を含めてテレビでもそのような報道してほしいが、実際には子どものバックグラウンドも、今まで育ってきた成育環境がどうだったのかというのを見定めた上で、その子に対して必要な支援をしなければいけない。でも、それができないまま、普通学級に普通の子どもと一緒に入れなければかわいそうになってしまうが、実は違って一緒に育つことが必要。その子に何が足りなくて、何を支援してあげて、お母さんに何をアドバイスして、どこで楽にしてあげるかが重要だがそういう支援がされない。そうすると、小学校の放課後の過ごし方もそこだ。地域の人から温かい目で見られて、認められて、本人たちが自己主張をしながら助け合うところまでいかない、自分の好きな遊びができればいいになってしまう。日本の文化というか、民族性のメリット、いい点でもあるがいけないところもあって、割と協調性があるとか、お行儀がいいのがあって、その根底にあるのは、基本的に同質的なものが周囲にいることを求める精神文化があるようだが、自分と同質ではない異質のものが隣にいることを許せるという文化をつくっていかないと。先ほどの例で言うと、知的な部分で最初から標準的な育ち方、成長する方もいれば、最初は遅いが思春期過ぎたらぐっと伸びたりする子もいる。それぞれに合わせた形で、構わないのではないかと。</p>
<p>会長</p>	<p>先ほど副会長が言っていたが、1歳半健診とか3歳健診で見ると、うちの子はおくれているとか、成長が大分遅いとか言われるが別に遅くたっていい。ただ、遅いことによって、その子やその親御さんが不利益を被るようならできるだけ支援する。そういう体制をつくるのが大事である。だから、最終的には小学校に上がるときに、特別支援の学級に行くことになったとしても、それは恥でも何でもないのであって、その子にとって最適な環境をどう与えてやるかを、親も周りも考えてやらなくてはいけないことが大事ではないかと思う。</p>
<p>副会長</p>	<p>理想はそうだと思う。だから親御さんの価値観に対する、そんなことで心配しなくていいよという、そういう支援もたまたまお子さん、1歳半の段階では成長が遅れているかもしれないが、10歳になったら標準的なところに追いつくかもしれない。そもそも標準とは何なのというところもあるので、それぞれ色々な考え方があっていいと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>大分色々な議論も飛び出したが、この委員会の中にあって、ある程度そういう考え方であ</p>

るとか、価値観であるとか、それを聞いたからといって、別に会長、副会長同じような考え方をしているなどかと、それと全く違う考え方を持っていたとしても全然構わない。私と副会長はアプローチは全然違うが、根本的なところは同じだということがある。

委員

委員の中で、全然価値観が違うという方がいても全然構わないが、少なくとも誰がどういうことを考えているのか、そういうものを共有できたという点では、大変にいいのではないかと。

私は小学校長だが、小学校の立場から言うと放課後子どもたちがどこで過ごすのかが心配なので、一定の守られている、安全が保たれている場所があるのはすごくありがたいことだ。それと、保護者の悩み、仕事されている、されていないに関わらず、色々なお話を伺うので、皆様の色々なご意見を聞いて、それは共通するところだと思っている。

私もそんなに詳しくないが、色々なサービスがあって保護者の方が自分に合っているものを選ぶという環境になればいい、それぞれを知る場面、知ることができる方法を知るのも大事と思う。お母さんが苦勞されているご家庭もあれば、お父さんの仕事が忙しくて、子どもが行き場もなくて自転車ですぐぐぐやっていると、小さい兄弟で遅くまでお友達のお家に、毎日違うお家で遊んでいる話を聞くと、色々な形でサービスがあればいいなど考えるところだ。

会長

ほかに。次いかかか。

委員

小規模保育所の保育士である。うちは、ゼロ、1、2なので小さい。基本的に両親と過ごせる時間があるなら過ごしてもらいたいが、皆さんお仕事しているので私たちはお預かりをして、無事に楽しく園生活を過ごせるように見守っている。でも、先ほども話があったように、お母様が疲れているとか、悩んでいるのが小規模ならではの、全員のお母様の把握はしているつもりだ。その時に一声かけると、お母様もそこで先生に声をかけてもらったということで、ぼろぼろ話し始めたら涙もとまらず、もう泣きながら。その後はにこにこ笑って、すっきりしたような表情を見せる方もいる。余り深いことを話したくない方、自分の気持ちを出したくない方もいるので、そこは上手く関係を保ちながら、悩みとか手伝うというか、少しでも手助けできればと考えることである。うちの保育士の中でも、子どもを持って働いているお母様がいますが、こういった市のもを利用したり、色々わかっている方もいる。しかし、中にはそういうことを教えても、わからない方もいる。忙しく仕事をしているせいかわれが荒れている。保育園に入った時から保育園を走り回り、外でばんばん飛びまわって、保育室に夕方になって大丈夫かなと思ったら、壁に頭をがんがんぶつけていた。もうこれはない、帰るときにお母さんに何かあったかという話を聞いたら、帰ったら忙しくて大変だから1時間半子どもに携帯持たせて、チューブとかを見せて静かにさせている。子どもと話す時間はお風呂の中で15分ぐらい、寝かせている10分だ。その子は、もう僕を見て、僕を構ってのアピールなのである。だから、保育園の中ではそういう感じで、その子に対しては褒めたらすごくいい顔していて、そうしたら今はすごく穏やかで、お母さんにもその話をしたら、お母さんも関わりがちょっと上手くいっているようで落ち着いてはいるが、ちょっとしたことを相談したり話したり現場の様子を伝えて、また市もそういう色々なものがあるのも、少しずつお母さんたちに知らせていけたらと思う。

会長

ありがとう。

副会長

今そういうお子さんが多い。

会長

結構いる。だから、子どもはアピールするためにいろいろな行動を起こしているのであって、子どもの行動そのものがいけないのではなくその前にある。忙しいかもしれないが、一番大事なのは、お母さんとの愛着形成、アタッチメントである。先ほど話すことでお母さんが泣いてというのもあったが、聞いてあげることも立派な支援の一つだから、続けて欲しい。

副会長	<p>フルタイムで5～6時まで働いて、子育てをするというのはとてもではないが厳しい。国全体で短時間をフルタイムと同じ扱いで、給料はその時間に見合った分で減るかもしれないが、そういう部分を国が認めて、ずっと正職で働けるという状況が続くだけでも、女性としてはありがたい、そういうことが子育ての期間には必要なのだと認められる雰囲気になっていけば変わる。国を変えるのは大変だが、まず地域からでもそういう子育てをする大切さは、働くと同等ぐらい素晴らしい。そういうメッセージが送れるようになるといい。</p>
委員	<p>あと一つ感じるのは、システムがどんどんよくなるのはいいことだが、ご近所つき合いができていないか。上手くつき合いができて信頼関係が結ばれると、自分の子どもを見てもらうときに、いたずらしたり何かあった時に叱ってもらえる。ただ見てもらうだけではなくて、子育てを一緒にしてもらえるようなご近所さんを、自分たちの手でつくるのも大事なのかなと。そうすると、地域が変わってくるような気がする。そういう人たちが1人でも2人でも増えていく。</p> <p>何でもそういうハードに頼ってばかりではなくて、自分たちで何かをつくって立ち上げて子育てをしていくのはとてもいいことだ。そこで仲間づくりも、また悩みを打ち明け合ってお互いがすっきりする。子育てのいい方法を見つけるのも、精神的に落ち着けるという中では、仲間をつくるのも大事だが、ご近所の年の近い人でも離れた人でもいいから、仲よく子どもと一緒に見てもらえる人とつき合いが広がっていくと一番地域が変わっていくという気がする。</p>
委員	<p>それに関してだが、先ほどのAsMamaは基本顔見知り为前提で、例えば小学校だったら小学校のママさん同士で子どもたちが一緒に帰っていく。お友達の家に行くような形。お友達の家に行って夕飯を食べて帰る。昔の昭和を再現しようという取り組みで、それを現代に復活させるのに無償ではということで、1時間500円でそれこそご近所の知り合いのお母さんとか、友人に預けるというところから始めてそのAsMamaが、メインのサポーターを地域で掘り起こす。地域に入って色々な集まりを、場を提供し、そこで色々な地域のおじいちゃん、おばあちゃん、お母さん方がメインとなって、色々なイベントを開催する。そこで顔見知りになったり、友人づくりをしていく中で、この人だったら預けられるかもしれないというところからスタートして、地域を盛り上げていこうという取り組みである。</p>
会長	<p>先ほど行政の縦割りの話があった。弊害。子育てする親御さんたちも、その公的機関であるとか民間も含めて、自分自身と自分の子どもとそういう機関と縦の関係を築けても、横の方が意外と希薄なため、簡単に解決できることが意外とうまくいかないことが結構ある。その辺の知恵もお互いに相互扶助をできるような体制づくりのヒントを与えていただければいい。</p>
委員	<p>他人の子どもを叱るのは難しい。結局、私自分の中で、本当に子ども怒っている時は、命に関わる時だけは、本当に怒らないといけな。うちは団地だがベランダで1人ふらふらとしているが、それだけは絶対にやめてくれと。そういう時は、子どもはどう思っているかわからないが、結構本気で怒っているつもり。ただ、それを同じように他の子どもさんにできるかと言われると、正直……。</p>
委員	<p>それはそれでいいと思う。別に無理に怒らなくても。</p>
副会長	<p>今、そういうので技術として必要なのが人間力として、笑いに変えられたり、そんなこともあるけど、でもだめなものはだめと言い切れるかだと思う。</p>
委員	<p>ただ、目に余ったときに、自分の子育ての仕方では注意してあげればいだけのことだ。子育ては幼児期だけではない。お母さんとその子どもたちとご近所づき合いができてい間に、おばさん、おじさんたちの顔を知る。その子たちが10歳、15歳と成長していく段階で非行に走った場合に、そのご近所のおじさんたちは小さい頃から自分の子どもと同じように見てきて</p>

副会長	<p>いるから注意ができる。だけど知らない子は怖くて注意できない。だから、小さいうちに顔見知りになるのはとても大事なことだし、信頼関係ができて自分の子どもだけではなくて、同じように他人の子どもを叱れるような関係を築き上げるというのが私は大事だと思っている。</p> <p>悪いことをその人の親に言える関係をつくれるのがいいことだ。実は、お宅のお子さんこういうことをしていたから、お母さんに伝えておくれねと言って、そのお母さんがすみませんと言いながら、その子と向き合えるようになっていく力をつけていくということであって、他人が叱れるかどうかではないと思う。そういうことを言っても大丈夫とか、言っても周りの人たちが見ているという安心感に、大人がその結びつきをしていくのが大事だ。</p>
会長 委員	<p>せっかくだから全員に。</p> <p>すこやか病児・病後児である。私は病院のすぐ近くに住んでいるが、近所から引っ越した方がいるが今でも電話が来る。仕事中に子どもが熱を出したと言われれば、小学校に迎えに行きあげたり、保育園に迎えに行ったり、信頼関係ができてから近所のいいおじさんかと。自分がこういう幼児の仕事をしているので安心感もあるのかなという感じで。人間関係をつくって、あのおじさんと安心して子ども任せられる。今の叱るということでは、私はズバッと怒る。自宅前は小学生が通るがいつも私から声かけて、おはようとおかえりとか。それほど親しくなってしまう。次の日は必ず子どもから挨拶してくれるから。そういうことで一生懸命、地域で努力している。もう1点、僕が感じたことは幼児を目いっぱい6時までお預かりしているが、色々な情報が入る。中には遊びに行っているお母さんもいる。この放課後の関係だが、預けて、仕事しないで遊びに行ってしまう。もういっぱい帰りは迎えに来る。そういう親御さんが最近増えたということでチェックして見ているが、実際はお仕事に行っていない。皆さんが真面目にお仕事をして、預かって、ご近所の方に500円で預けるのもいいが、遊びたくてそういうことをされる若いお母さんもいる。</p>
会長 委員	<p>ありがとう。</p> <p>中学2年生と小学校6年生と小学校1年生の子育てをしている。まず、お母さんたちの話す場所が少なくなっているところで、文庫とか保育園の園庭開放とかすごくいい場所だと思う。相談事があっても、保健センターやかるがも支援センターに電話して行くかといったら、そこまでお母さんは足を運ばない。そういうお母さんたちが集まる遊び場というか、アドバイスする、指導する先生とか、地域のお母さんとかそういう方がいるのがすごくよいことだ。</p> <p>私自身も、長女の時に市内にとっても通いやすい保育園の園庭解放があった。随時園庭で遊ばせながら、その場に保育園の先生が見守ってくれた。つかず離れずという距離で話さない日もあれば、ちょっと先生お話を聞いてくださいという距離の時もあった。</p> <p>あと、市内に児童館やかるがも広場もありそこもよく利用をしたが、保育士さんは児童館にはいるが、お母さんと幼児が遊ぶ部屋の中には常時いない。奥で仕事をしていて、たまに顔を出してはまたどこかに行ってしまうという感じで、お母さんと子どもたちだけの部屋の空間が多かったように感じる。もちろん部屋の中には、何か相談事があたら声をかけてくださいと書いてあるが、もし今後、児童館やかるがも広場でずっと常駐する方がいると、もっとお母さんたちは話ができるのではないかと感じている。</p> <p>あとは、実際に放課後子ども教室を利用している。学童保育と放課後教室を一緒に認識してしまうかと思うが、学童は基本働いているお母さんのお子さんを預かる。放課後子ども教室は、学童に行っていないお子さんを学校で、放課後子ども教室という場で、ここにいきましょうというところで、預かるというよりも子どもたちが自主的に行っている。うちの子どもたちも放課後</p>

子ども教室が大好きで、小学校に入ると保育園、幼稚園と違って学校の学ぶことが1日すごい時間割で入ってくる。休み時間、中休みがあっても次は体操だから着がえてとか、お友達と遊べる時間がない。帰る方向が違ったり、公園などで遊ぶことが難しい子どもたちもいる。放課後子ども教室があると、そのままそこでたくさんの遊びをして充実して帰ってくる。

放課後子ども教室は、長男が1年生か2年生の時に始まった。長女の時はなかったのですが、近所の公園に放課後出て、見守って遊ばせるということをしていたが、ワンちゃんのたまり場になっていたり、ごみも落ちていたり、市の方が一生懸命、おじいちゃん、おばあちゃんが来て草刈りとかして、手入れをしているが追いつかずで危ないものもあった。かといって今日は忙しいから子どもだけで公園行かせて遊ばせると、自転車乗り回したり、すべり台の上に自転車を上げて乗ったまま降りたり、大人の目がそこにないとすごい遊びを子どもたちは考える。放課後教室は安全な場所、校庭、広い体育館で、見守っていただいているのは本当にありがたいことだ。たまに見に行くと、おじいちゃん、おばあちゃんたちが汗だくになって子どもたちの相手をしていて、保育士さんではないし、初めはボランティアから始まって、今は報酬とかあるとは思いますが、ボランティアでお願いするにはかわいそうなぐらいみんな頑張っている。放課後教室の充実を図るのであれば、報酬を上げたほうが、気持ちよく過ごせることになるのではないかと思う。

あと、気になったのが、前回配った資料の中で、今、学童のニーズが増えてしまって、放課後子ども教室と学童が3年後に一体化になるかもあったが、子どもたちの目から見れば一緒になることはいいことだ。子どもたちは素朴に、なぜ学童にいるお友達とは遊べないのと言って、学校のすぐそばにあるのにどうしてと。そういった部分では、放課後遊ぶ友達も幅が広がるし、学校といった安全な場所で見ただけの、すごくいいことだとは思いますが、例えば月謝とかおやつ代とか、児童館は月に6,000円かかっているが放課後子ども教室は無料だ。その部分をどう整理をしていくのかというのを感じていた。

あと、今第八小学校に通っているが、放課後教室の子どもたちと、道を挟んで目の前にある学童を見ていると敷地が非常に狭い。この中で7時まで預かっているのかなど。環境の違いが。片や道を挟んで学校では校庭を走り回って、体育館を走り回って伸び伸びと。保育士や専門職ではないが、たくさんの大人が見守って遊んでいるという感じ。

ありがとう。ということで、皆さんにいろいろな意見頂戴した。そもその議題は……

ボランティアにお金をあげるとなると、その保障をどうするのか。子どもに安全の場だけでいいのか。これから生きていく力、自分たちで安全にしていける、子どもたちが育つ上で危険性がないと満足しない、あとそうなったときにどうするのかを学んでいかないと、中高生で自分たちの中で喧嘩ができなくなる。それが社会人になると、自分のことを自分で言わなければいけない部分を、どうつくるかが今不足している。幼稚園でもそこからしなければいけないと思って、自分で謝らなければいけないところを謝るように、親や先生が決めつけてやるとなると、どうしても子どもたちは自分の気持ちを言わなくなる。危ないことを自分で言う、言えるようになることも含めて、親の見えていないところで何かが起こったら誰の責任だと、なってしまうのではないか。それが今、子どもたちが育たない理由になっている。その部分を言えるように、子どもたちが大人がいないところで遊ぶ経験の中で、帰ってきたときに何かあったり、怪我をしたときに、親が話をしたり、何がいけなかったのかが自分で言えるようになっていくことも、必要になっていくと思う。今の時代、働く親も増えてきた。遊ぶ場所も危険な場所も増えてきた。そこを地域でどう考えていくか。防災上のことも考えてなければいけない。不審者も増え

会長
副会長

<p>会長</p>	<p>てきた。では、子どもが大人の中で守られているところだけつくって、それにお金をかけていっても、それだけのお金を出せる家庭がどこまであるのか。行政もどこまで責任を負えるのかがある中で、自分たちでできること、地域がどう頑張るのか。親もどう立ち上がるのかということも、もう一度話し合わなければいけないのがすごく今の時代難しい。</p> <p>ありがとう。とりあえず保育所の待機児に関しては目処がついてきた。次に迫っている課題として、学童の待機児童数と小学生の放課後の過ごし方についてどうだということで、1番目の議事として上げられたが、それを発端として皆さんからさまざまな意見を頂戴して、大変よかった。それぞれの子育て観であるとか、社会観であるとか教育観であるとか、そういうのを共有できたのではないかと思う。様々出てきたが現実には幾つかのメニューもあるが、もっとこういうメニューが出てくるとありがたいなという提起も幾つかされたところで、もう少し整理した上で、もちろん行政だから全部が全部できるものでもない。公的な関係もあって、それこそ責任の問題とか含めて、どうしたってここはやり切れないというところもあったりすると思うので、その辺を一旦整理した上で、市として何を手がけてみる事ができるのかと。この会議で、そのヒントというか方向づけができれば、また次回以降よろしいのではないかと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>6. ママサロンについて</p> <p>(2)でママサロンについて事務局で上げているが、委員から提案された資料にこれに近いものがある。ママサロンとママカフェの違いは何かと。これ説明していただけるか。</p>
<p>委員</p>	<p>ママサロンとママカフェは飲食をつけるかつかないかの違いだけだが、東大和市以外の市町村では、お母さん方が集い合って、それこそいろいろな地域の方と関わって、お話をするような場所が増えている。調布市は行政と一体となって行っているが、武蔵村山市のようにお母さんが立ち上げた場所もある。各市で色々な独自の取り組みをしているが共通しているのは、お母さんの孤立を防ごうということで、私の周りにも子どもを産んでから2年間、かるがもの近くに住んでいても行けなかった、1年間出られなかった、他のお母さんと交流しようと思えなかったとか。思い詰めて家出をしてしまったお母さんもいたりとか、本当に多くて、そういう方が他のお母さん方と関われる場所が、この市内にはほとんどないのではないかと思う。</p> <p>かるがもや児童館に来られる人は積極的な方で、来られない人をどう支援していくのか。地域の関われる場所として、他のお母さん方からみり福祉園がスペースとして空いているので、そこを地域の場として活用させていただけないか、中小企業大学のビジネスさんがあるが、市を通してなら月に一、二回なら貸してくれると言われたので、広いスペースを活用し、それこそ芝生もあるし子どもが思い切り走れる場所も、東大和市に貴重などころがあるので、お母さんたちがそこで地域の方も加わりながら、それこそ井戸端会議でもいいと思う。不安な気持ちを誰かに話すことで、ほっとできる場所があると思うので、そういう場を活用したいことと、東大和市内で色々な特技を生かして自分たちで母親の皆さんが立ち上げたもの。お祭りをしようとか立ち上がっている方、自分たちでまちおこしをしようと考えている方が結構いる。そういう方たちに、そういう場を提供することで活躍していただいて、それこそ短時間で働くような形を生み出してもいいと思うし、多様性がここで生まれていくのではないかと思うので、こういうコミュニティの場所があったらいいと思って、提案させていただいた。</p>
<p>会長</p>	<p>このママさんについていかがか。何かご意見あったら。</p>
<p>委員</p>	<p>実際、市民の間でそういう動きが出ているというところが頼もしくていい。</p> <p>そう。結構いるので、そういう方が活躍の場を求めているということ。</p>

副会長	<p>そうやって自分たちの中で立ち上がってやるという、そういう場所が今問題である。自分たちで責任を持たないと、結局潰れてしまう。そこも問題だ。ただ、そういうところで場所で貸してもらえるところがあると、ありがたいということだ。</p>
委員	<p>あと1点だが、お母さん方の中には、出産まで色々なところで活躍していた方がいて、この前のビジネスさんの交流会に参加したが、大賞をとった方が東大和市出身のお母さんで、それこそ一流ホテルでずっとシェフをされてきた方だ。そういう方がどこか活躍できる場所はないかと求めているので、場所を提供するだけでも、変わってくるのではないかなと思う。</p>
会長	<p>ありがとう。ということで、今の議事も子育てに関わることも事務局でも整理していただいて、行政として可能なもの、ニーズからの点ではできないことがあると思うが、いずれにしても市民のために、できるメニューをできるだけそろえて、その中から最適なものを選択できるような環境をつくるのが、いいのではないかなと思う。</p> <p>ただ問題は、せっかくつくったメニューを市民が知らないままで過ごしてしまっている。いかにして浸透させていくか、PRしていくかというのも、大きな課題の一つかなと思う。ということで、またこれをもとに事務局のほうでいろいろ整理してもらえと思う。</p>
会長 事務局	<p>7. 10月1日現在の学童における待機児童数について</p> <p>次に(3)の報告事項、10月1日現在の学童における待機児童数について。</p> <p>お手元に10月1日付と4月1日付の学童保育所の申請・入所の状況を入れている。二百数名から約60名待機児童が少なくなっていて、当初はランドセル来館も各児童館が6館あり、その上でやっていた。また、第二小学校と第四小学校についても、余裕教室で、放課後子ども教室を行っている。南街地区、桜が丘地区の待機児童が非常に多いというのがあり、また待機児童の半分以上が第二クラブなのが今の現状である。</p>
会長	<p>ありがとう。この点で何かご質問なりご意見あるか。今の報告に対して。よろしいか。</p>
会長 事務局	<p>8. 次回会議日程について</p> <p>では、次回の会議日程、これも事務局のほうから。</p> <p>長時間いろいろなお意見、ご提案ありがとう。私からも、現在行っている施行中の施策も含めて報告したいと思う。今年の4月から市内で初めて小規模保育が始まった。昨年までは東京都の認証保育所で運営していたが、この4月から国の制度で小規模保育事業ということで、行っていただいている。それから、10月1日から玉川上水の駅前マンションの1階、れんげ第二桜が丘保育園で小規模保育事業がスタートした。それから上北台の駅前、先月の市議会で今年度中に工事する予算がとれたので、来年の4月には3つ目の小規模保育がスタートする。今の市長が6年前に就任した時から、認可保育所は15園体制ということで、その中で各保育園の増築や改築、お子さんの受け入れ枠を増やしたところであり、22年から28年の5～6年で、400人ぐらい定員が増えたが、まだまだ保育を希望される、保育施設、保育園だけではなく、その割合が高まっている状況があり、待機児童が減らない。</p> <p>そんな中、小学校に上がる前までのゼロ歳から5歳までの人口の推移を一覧に落としたものがある。4,600名ぐらいで5年間推移しているが、大幅な減にはなっていない。しかし、桜が丘地域だけ見ると、1,342人で、市内の未就学児の3分の1以上、35%ぐらいで、どんどん増加をしている。それに対し清原地区は、下から2番目にあるがついに100人を切っている、こういう地域差が見てとれるかなと思う。そんな中、先ほどから小学生の放課後、それからご自分</p>

で育児をされているお子さんについてのご意見等色々いただきましたが、市としても、未就学児に対する、預かる施策については、かなり力を入れてきたというふうに自負しているが、これは国の施策もそうであり、国で手厚く助成をいただいていると我々も思っている。

私も色々な機会で、どのような施策が今後いいのか、今うちでも児童館の嘱託員の採用試験を頻繁に行っており、昨年ぐらいから、この市にあったらいいとか、こんなのをご自分で子育てしていくときにあればよかった。こんなものがあればいいのかという部分を面接の場で、常々お聞きしているが、最近、病児・病後児保育のお迎えサービス、母子家庭であって助かっていると。もっと広げてほしいというご意見をいただいた、それから1歳半健診、3歳、そこで一度皆さんお集まりになるが、その後同じ保育園や幼稚園、学校に行くわけではない。たまたま子どもにとっては同級生の親、それがずっと集えるような集まりを行政でやっていただくといいかというようなところも、なるほどと。違うグループで色々できるのかと。子どもさんが誕生日近いわけだ。そんなのご意見もいただいた。

そんな中、先ほど会長から保育コンシェルジュの話があったが、国も2人目を採用しても、補助金をつけるような金額を示されたので、1人だとノウハウの継承がなかなか難しいので、そのノウハウが途絶えることがないように、2人体制がいいと思っているところで、来年度に向けて予算要望を予定するところである。それから、保育だけではなくて、先を行っているところは、子育てのコンシェルジュを充てている自治体もあるので、保育コンシェルジュでノウハウを蓄積したら、そこから一步進めて子育てコンシェルジュも置かなければならないような資料をこの間見たところである。

会長

本日は、色々ご意見いただいてありがとうございます。この計画、2年目を迎えているが、世の中の流れが速いということで、通常計画は10年かかるが、これは5年である。かつ、この計画については、時代にそぐわない、それから新たなものが求められるというので、逐次改正ができることになっている。来年度は中間年に当たるので、それに向けて、今日お示した市民ニーズ調査も4年前なので、随分違っていると思うので、皆様方のご意見、それから市民の意識調査を行っているので、そちらも参考に、見直しを皆様の中でしていただかなければならないかと思っている。

事務局

本日は本当にありがとうございます。次回の日程だが、会場の都合で2月22日水曜日の午後2時から抑えてあるが、いかがか。

では24日の午後2時からということで、この部屋で。

9. 閉会

では、第3回終了したいと思う。お疲れ様でした。